

平成17年度 試験研究(事前)評価整理表

整理表1

試験研究機関名 内水面水産試験場

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント	評価結果の反映状況(予算要求・手法・その他)
	施策目標	研究課題分類				始期	終期				
1	豊かで魅力のある水産業の振興	水産資源の増殖技術に関する研究	アユ増殖技術の開発	一部漁協で釣果実績があり、内水面漁連が種苗生産を望んでいるダム湖産種苗等を対象に、中間育成、釣果等から種苗特性を評価する。また、早期放流の可能な単価の安い小型種苗の放流効果を把握する。	・ダム湖産種苗について釣獲評価を行う。(県外産人工種苗、県内産天然種苗) ・飼育環境の違いによる釣獲評価を行う。 ・小型種苗の放流効果を把握する。	18	22	A	特にニーズが高く、波及効果も大きいと考えられるため、優先的に実施すべきである。	アユに関する広域な漁業資源の開発や育成、経済的な効果波及につながる重要な課題と考えられる。	予算要求額はシーリングのため当初計画より減額するが、重要課題のため重点的に取り組む。手法等については計画どおり実施する。
2	豊かで魅力のある水産業の振興		ワカサギ増殖技術の開発	県内での採卵自給体制を確立するため、採卵技術、放流技術を指導し、技術の向上を図る。資源及び漁場環境をモニタリング、解析し、適正な資源管理手法について検討する。	親魚の効率的採捕、採卵・媒精技術、種卵の移植放流について指導する。 加入量(放流、自然産卵)と釣獲状況、漁場環境(水質、餌料生物)調査を実施する。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	ワカサギに関する資源増殖方法の解明と管理方策の適正化に必要な課題と考えられる。	予算要求額はシーリングのため当初計画より減額するが、重要課題のため重点的に取り組む。手法等については計画どおり実施する。
3	豊かで魅力のある水産業の振興		ヒメマス増殖技術の開発	資源及び漁場環境をモニタリングし、適正な種苗放流量等、資源管理手法について検討を行う。	加入量(放流、自然産卵)と漁獲量、漁場環境(水質、餌料生物)調査を実施する。 成長式等の資源特性値を把握し、資源状況を把握する。	18	22	C	ニーズに対応するためには、研究計画を見直し実施すべきである。	地域特産魚種の安定生産を確保する基礎的データの取得として期待される。	予算要求額はシーリングのため当初計画より減額するが、重点的に取り組む。手法等については計画内容を一部見直し、研究の早期化を図る。
4	豊かで魅力のある水産業の振興	内水面養殖の新魚種や品質向上に関する研究	モツゴ養殖技術の確立	モツゴの成熟調整技術および集中産卵技術を開発し、コイ養殖池で混養することにより、生産性の向上と経営の安定を図る。	親魚の催熟調整による水仔の大量生産技術の開発 手法の比較試験 コイ養殖池での実証試験	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	コイ養殖における経営多角化のため、簡易で導入効果の高い技術開発として必要と考えられる。	予算要求額はシーリングのため当初計画よりやや減額するが、重要課題のため重点的に取り組む。手法等については計画どおり実施する。
5	豊かで魅力のある水産業の振興		フナ粗放養技術の開発	現在未活用である休耕田、ため池を養殖池として利用し、フナなどの種苗を生産する技術を開発し、生産モデルを作る。	養殖適地の調査 種苗生産試験 親魚の養成および採卵試験	18	22	C	養殖適地調査等の実施方法において検討すべき点があることから、研究計画を見直し実施すべきである。	地域特産魚種の安定生産を確保する上で、遊休農地など効率性の低い資源を活用した生産に向けた、基礎的データの取得として期待される。	予算要求額はシーリングのため、当初計画よりやや減額するが、重点的に取り組む。手法等については、養殖適地調査等の実施計画の一部見直し、実施する。
6	豊かで魅力のある水産業の振興		イトウ親魚育成技術の開発	イトウは採卵時のふ化率が低く、安定した種苗生産が困難であるため、親魚の養成方法を改良することでふ化率の向上を図る。	・時期ごとに飼育水温を変えて親魚育成を行う。 ・3～5月に採精し、精子の運動性を調査する。 ・雌の成熟時期に合わせて採精し、ふ化率(受精率・発眼率・浮上率)を調査する。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	地域特産魚種の安定生産を確保する上で必要であり、対象が希少性に富み、地域性の高い課題と考えられる。	予算要求額は研究課題の見直し、整理により、当初計画よりやや減額するが、重要課題のため重点的に取り組む。手法等については計画どおり実施する。
7	豊かで魅力のある水産業の振興		高付加価値魚作出保存技術の確立	ヤマメについて、4倍体魚と性転換雄を交配による全雄3倍体魚を量産する技術を開発する。	受精卵の圧力処理により4倍体魚を作出する。 4倍体魚を継代し、優良な親魚群を育成する。 4倍体魚と性転換雄の交配により全雄3倍体魚を作出し、その特性を評価する。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	良質なヤマメの安定生産に必要な、研究開発性の高い課題と考えられる。	予算要求額はシーリングのため、当初計画よりやや減額するが、重要課題のため重点的に取り組む。手法等については計画どおり実施する。